

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	車内着装した空気呼吸器のボンベがハーネスから外れて車外に飛び出した
3. 体験した事例の中心的要素	救助工作車の隊員であった当事者は、火災現場出勤途上、後部座席左側で空気呼吸器を車内着装した。その後、救助工作車が左折するに当たり、安全確認のため左後方を確認しようと上半身を窓の外に出そうとしたところ、突然、着装していた呼吸器のボンベが外れて（高圧導管は繋がっていた）車外に飛び出した。当事者は高圧導管を手繰り寄せ、ボンベを車内に引き込んだ。幸いボンベによる接触事故は起こらなかった。現場は途中引揚となり、帰署後に空気呼吸器を確認すると、ハーネスとボンベ絞めバンドを連結するビスが外れていた。
4. 体験した事例の原因・理由	当事者は事前の点検を怠り、自分が使用する空気呼吸器ハーネスとボンベ絞めバンドを連結するビスが緩んでいた事に気づかず使用した事により本事例が発生した。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成8年7月13日 午後1時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：火災現場出勤途上の救助工作車内
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：車外に飛び出した空気ボンベが通行人や一般車両にぶつかり危害を与える
7. 事例体験時の活動	火災出勤途上、[その他：火災現場出勤途上、緊急走行時の救助工作車内]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	その他：緊急走行時の左後方安全確認実施時
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[22]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4] 年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	火災現場出動のため救助工作車に乗車	
経過2	当事者A	出動途上に空気呼吸器を車内着装	
経過3	当事者A	車両左側の安全確認のため身を乗り出す	
経過4	当事者A	空気ボンベがハーネスから外れて車外へ	高圧導管で繋がっていた
経過5	当事者A	すぐに車外の空気ボンベを引き込んだ	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

[illegible]

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

他隊(員)から適切な注意を受けた。 たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ
b. 注意力が欠如していた	
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

空気呼吸器の使用前点検及び整備を怠った

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

ヒヤリハット事例

- ① 火災現場出勤途上、空気呼吸器を車内着装した当事者(救助工作車隊員)は、緊急走行中に左後方の安全確認を実施しようと身を乗り出した際、空気ボンベが呼吸器ハーネスから外れ(高圧導管は繋がっていた)、車外へ飛び出した。



- ② 現場から帰署後、当該空気呼吸器を確認した結果、呼吸器ハーネスと空気ボンベ締めバンドを連結するビスが外れていたため本事例が発生したことが判明し、直ちに配置されている空気呼吸器全てを点検した。